



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年8月4日

上場会社名 株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス 上場取引所 札
 コード番号 3055 URL http://www.hokutake.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 眞鍋 雅昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経営管理 (氏名) 巖 友弘 TEL 011-633-1030
 統括本部副本部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切り捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	51,606	△1.7	64	△79.8	310	△45.1	175	△38.9
26年3月期第1四半期	52,475	2.7	317	△19.1	566	△11.3	286	△1.8

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 364百万円 (3.1%) 26年3月期第1四半期 354百万円 (46.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	6.97	—
26年3月期第1四半期	11.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	115,253	43,262	37.5	1,722.46
26年3月期	113,677	43,088	37.9	1,715.27

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 43,259百万円 26年3月期 43,079百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	12.50	—	7.50	20.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成26年3月期の中間配当12円50銭の中に、株式会社ほくやく創業100周年記念配当5円が含まれております。

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	106,000	1.3	900	0.9	1,300	1.5	700	3.7	27.87
通期	216,000	0.7	2,400	3.9	3,100	1.0	1,700	2.9	67.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	25,976,221株	26年3月期	25,976,221株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	860,934株	26年3月期	860,934株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	25,115,287株	26年3月期1Q	25,115,578株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きが実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社および当社グループが現時点で入手可能な情報に基づいております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引上げに伴う個人消費の減速懸念が残るものの、経済対策や金融緩和を背景とした企業収益・雇用情勢の改善が見られるなど穏やかな回復基調が続いています。一方で、エネルギーコストの上昇や海外景気の下振れ不安など、依然として先行きは不透明な状況にあります。

医療業界におきましては、社会保障制度改革として医療・介護の提供体制の見直しと地域包括ケアシステムの構築が示されています。平成26年診療報酬改定においても医療機関の機能分化が強く推し進められます。改定では、薬価や償還価格の引下げも行われ、事業環境変化への適応力と経営の一層の効率化が求められます。

このような中、当社グループは、総合ヘルスケア企業グループとして「ホールディングスはひとつ」をスローガンに掲げ、各事業の強化はもとより事業間連携によるシナジーの最大化により、お得意先の利便性向上のための活動を進めてきております。平成24年度からスタートした第二次中期3ヵ年計画も最終年度に入り、事業間連携をより具体化することによるサービス機能の一層の強化を推進してきております。

医薬品・医療材料の総合物品管理業務に取り組むSPD事業は、管理データをベースとしたお得意先の経営改善につながるご提案や手術症例に合わせた高度な管理業務への取組みも始め、高い評価をいただいております。ICT事業の株式会社アドウィックでは、開発を進めてきた電子カルテを中心とする統合型医療情報システム「カリズマ」の医療機関への導入を始めました。これにより、今後、医療機関のIT基盤構築と医療連携への貢献が期待されています。また、厚生労働省の描く地域包括ケアシステムの構築にも積極的に関わっていくため、介護事業の株式会社マルベリーでは、4月にグループホーム「ほほえみの家」を立ち上げました。また、同じく株式会社モルスでは、サービス付き高齢者住宅「ふれあいの森」の今秋の開設を目指して準備を進めております。これらを通じて、これまでの予防、治療、介護といった領域に加え、「住まい」と「生活支援」にも深く関わり、総合ヘルスケア企業として切れ目のない地域連携に貢献してまいります。

このような状況において、当第1四半期連結累計期間における売上高は516億6百万円（前年同期比1.7%減）となりました。また、営業利益は64百万円（同79.8%減）、経常利益は3億10百万円（同45.1%減）、四半期純利益は1億75百万円（同38.9%減）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(医薬品卸売事業)

医薬品卸売事業におきましては、4月に診療報酬改定並びに平均2.65%の薬価引下げが実施されるなど厳しい市場環境が続いております。

このような中、高齢化の進展を背景とした生活習慣病薬、抗がん剤などの分野での新製品の売上は好調でしたが、消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動の影響が見られました。また、後発医薬品は使用促進策により売上が伸長した反面、長期収載医薬品の売上げが大きく落ち込みました。利益面では、品目ごとのきめ細かな価格交渉に継続して取り組んでいるものの、依然厳しい価格交渉が続きました。

その結果、売上高は399億35百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は69百万円（同25.4%減）となりました。

(医療機器卸売事業)

医療機器卸売事業におきましては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動が一部に見られたものの、画像診断機器をはじめ眼科製品・手術装置関連機器などの大型機器の買い替え需要等の獲得もあり、売上は安定して推移いたしました。しかしながら利益面においては、4月の診療報酬改定に伴う償還価格材料の引下げや競争激化による納入価格の低下に加え、販売管理費の増加により大幅な減益となりました。

その結果、売上高は102億53百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は98百万円（同39.0%減）となりました。

(調剤事業)

調剤事業におきましては、4月に実施された調剤報酬改定による調剤技術料収入の落ち込みが見られたものの、新規開設店の売上が寄与し、売上高は前年並みに推移しました。利益面におきましては、消費税率引上げによる製造経費の増加および新規店舗での先行投資としての人件費増もあり厳しい状況となりました。

その結果、売上高は24億69百万円（前年同期比5.7%増）、営業損失は1百万円（前年同期は営業利益68百万円）となりました。

(介護事業)

介護事業におきましては、福祉用具レンタル・販売および住宅改修において、福祉用具サービス計画や納品後のフォローの徹底、品揃えとデモ品提供体制の充実、営業員の増員・育成による迅速なサービス体制の充実を図ってまいりました。新規事業所の開設も寄与し売上高は順調に推移しましたが、営業員の増員・育成などの先行投資による販管費増加の影響から利益面では前年を下回りました。

その結果、売上高は4億85百万円(前年同期比3.5%増)、営業利益は6百万円(同79.4%減)となりました。

(ICT事業)

ICT事業におきましては、情報機器関連ビジネスの大型案件受注もあり、売上高は前年比大幅増となりました。一方、利益面では、依然として収益性の高いソフトウェア開発案件に伴う人的投資が先行していることと、開発案件の遅れによる外注費の大幅増により、大変厳しい状況となりました。

その結果、売上高は5億22百万円(前年同期比19.1%増)、営業損失は80百万円(前年同期は営業損失24百万円)となりました

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、売上債権の減少およびたな卸資産の減少等により、当第1四半期連結会計期間末には220億58百万円(前年同期比18.4%増)となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は36億86百万円(前年同期は4億7百万円の使用)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が2億85百万円(前年同期比44.2%減)、売上債権の減少10億50百万円(前年同期は27億1百万円の増加)、たな卸資産の減少12億53百万円(前年同期比142.5%増)および未収入金の減少7億47百万円(同346.4%増)によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1億42百万円(前年同期比58.3%減)となりました。これは主に、定期預金の払戻1億37百万円(前年同期は実績なし)、有形固定資産の取得86百万円(前年同期比60.2%減)、投資有価証券の取得51百万円(同338.7%増)および新規連結子会社の取得1億13百万円(前年同期は実績なし)によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1億7百万円(前年同期比51.4%減)となりました。これは主に、短期借入による収入70百万円(前年同期は実績なし)および配当金の支払1億53百万円(前年同期比22.3%減)によるものであります

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月15日の決算短信で発表しました第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,742	22,064
受取手形及び売掛金	48,549	47,595
商品及び製品	14,548	13,293
仕掛品	—	29
繰延税金資産	538	1,488
その他	5,808	4,993
貸倒引当金	△51	△51
流動資産合計	88,137	89,413
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,433	5,569
土地	6,065	6,081
建設仮勘定	472	307
その他（純額）	514	513
有形固定資産合計	12,486	12,471
無形固定資産		
のれん	280	378
ソフトウェア	775	736
その他	183	172
無形固定資産合計	1,239	1,287
投資その他の資産		
投資有価証券	10,364	10,731
長期売掛金	576	561
破産更生債権等	18	18
長期貸付金	117	112
繰延税金資産	216	128
その他	904	910
貸倒引当金	△383	△381
投資その他の資産合計	11,814	12,081
固定資産合計	25,540	25,840
資産合計	113,677	115,253

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,594	65,504
短期借入金	—	70
1年内返済予定の長期借入金	5	3
未払法人税等	409	1,010
賞与引当金	694	1,087
役員賞与引当金	117	29
返品調整引当金	60	60
その他	1,043	1,432
流動負債合計	67,924	69,198
固定負債		
長期借入金	—	28
繰延税金負債	1,466	1,548
再評価に係る繰延税金負債	142	142
退職給付に係る負債	396	421
長期未払金	399	387
資産除去債務	218	219
その他	41	43
固定負債合計	2,663	2,791
負債合計	70,588	71,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	12,756	12,756
利益剰余金	27,904	27,879
自己株式	△426	△426
株主資本合計	41,234	41,209
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,018	3,218
土地再評価差額金	△1,128	△1,128
退職給付に係る調整累計額	△43	△39
その他の包括利益累計額合計	1,845	2,050
少数株主持分	9	2
純資産合計	43,088	43,262
負債純資産合計	113,677	115,253

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	52,475	51,606
売上原価	48,623	47,951
売上総利益	3,852	3,654
販売費及び一般管理費		
荷造費	201	227
給料	1,540	1,558
役員賞与引当金繰入額	24	28
賞与引当金繰入額	348	348
退職給付費用	83	78
法定福利及び厚生費	300	300
賃借料	64	58
研究開発費	—	14
その他	970	976
販売費及び一般管理費合計	3,534	3,590
営業利益	317	64
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	96	105
受取事務手数料	105	101
不動産賃貸料	20	22
持分法による投資利益	12	7
貸倒引当金戻入額	1	2
その他	45	39
営業外収益合計	286	281
営業外費用		
支払利息	0	0
不動産賃貸原価	21	22
遊休資産諸費用	8	4
持分法による投資損失	2	3
その他	6	5
営業外費用合計	38	35
経常利益	566	310
特別損失		
固定資産売却損	47	—
固定資産除却損	6	6
投資有価証券評価損	—	2
臨時損失	—	15
その他	—	0
特別損失合計	54	25
税金等調整前四半期純利益	511	285
法人税、住民税及び事業税	492	1,004
法人税等調整額	△267	△888

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
法人税等合計	225	116
少数株主損益調整前四半期純利益	286	168
少数株主損失(△)	—	△6
四半期純利益	286	175

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	286	168
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67	200
退職給付に係る調整額	—	△4
その他の包括利益合計	67	196
四半期包括利益	354	364
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	354	371
少数株主に係る四半期包括利益	—	△6

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	511	285
減価償却費	255	227
のれん償却額	10	12
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△2
受取利息及び受取配当金	△99	△108
支払利息	0	0
為替差損益(△は益)	△2	0
持分法による投資損益(△は益)	△10	△4
固定資産売却損益(△は益)	47	—
固定資産除却損	6	6
投資有価証券評価損益(△は益)	—	2
会員権評価損	—	0
売上債権の増減額(△は増加)	△2,701	1,050
たな卸資産の増減額(△は増加)	517	1,253
仕入債務の増減額(△は減少)	1,618	△151
未払消費税等の増減額(△は減少)	56	391
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	7
賞与引当金の増減額(△は減少)	388	393
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△70	△87
未収入金の増減額(△は増加)	167	747
預り金の増減額(△は減少)	38	64
その他	△274	△101
小計	462	3,988
利息及び配当金の受取額	99	108
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△969	△410
営業活動によるキャッシュ・フロー	△407	3,686
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
定期預金の払戻による収入	—	137
有形固定資産の取得による支出	△216	△86
有形固定資産の売却による収入	34	—
無形固定資産の取得による支出	△121	△14
投資有価証券の取得による支出	△11	△51
投資有価証券の売却による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	—	△113
貸付けによる支出	△28	△10
貸付金の回収による収入	1	1
その他	—	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△342	△142

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	70
長期借入金の返済による支出	△2	△7
単元未満株式の売買による収入及び支出	△0	—
配当金の支払額	△198	△153
リース債務の返済による支出	△21	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	△221	△107
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△970	3,434
現金及び現金同等物の期首残高	19,597	18,599
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	23
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,627	22,058

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売 事業	医療機器卸 売事業	調剤事業	介護事業	I C T事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	39,503	9,982	2,331	467	176	13	52,475
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,585	92	3	2	262	477	2,423
計	41,089	10,075	2,334	469	438	490	54,898
セグメント利益又は損失 (△)	93	161	68	33	△24	228	560

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	560
セグメント間取引消去	△224
のれんの償却額	△9
たな卸資産の調整額	△7
四半期連結損益計算書の営業利益	317

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売 事業	医療機器卸 売事業	調剤事業	介護事業	I C T事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	38,082	10,165	2,465	483	396	12	51,606
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,853	87	3	2	126	487	2,560
計	39,935	10,253	2,469	485	522	500	54,166
セグメント利益又は損失 (△)	69	98	△1	6	△80	206	299

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	299
セグメント間取引消去	△254
のれんの償却額	△9
たな卸資産の調整額	29
四半期連結損益計算書の営業利益	64

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤事業」セグメントにおいて、平成26年4月1日に有限会社羽幌調剤センターの株式を、平成26年6月1日に有限会社調剤のいろはの株式をそれぞれ取得し連結子会社といたしました。

なお、当該事象等によるのれんの発生額は、「調剤事業」セグメントで1億10百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。